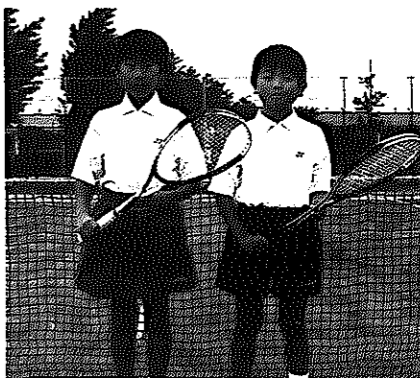


「予選突破するぞ!!」

挑戦の舞台は九州佐賀県



右より鈴木君・相沢君

八月一日から佐賀県で開催される全日本小学生ソフトテニス選手権大会に、県代表メンバーとして、白根ソフトテニススポーツ少年団の鈴木洋平君（小林小／六年）・相沢佑樹君（白根小／六年）ペアが出場することになりました。

鈴木君は「予選突破が目標ですが、まずとにかく一回勝ちたいです」、相沢君は「春の全国大会では予選突破ができなかったため、今回は予選を突破したいです」と意気込みを話してくれました。

この夏、全国で輝く白根の星をご紹介します

「伝統づくりの第一歩にしたい」白根中生の挑戦始まる



前右より白野さん・小林藤夫君・小林美咲さん
後右より森山さん・小林伸子さん・山田さん

八月二日から長野県で開催される小中学生全国空手道選手権大会に、白根中学校の山田小百合さん（三年）、小林伸子さん（三年）、森山

響さん（二年）、白野瑞穂さん（二年）、小林美咲さん（二年）、小林藤夫君（二年）の六人が出場します。山田さんは「中学最後の大会なので日本一を目指します」、小林伸子さんは「練習の成果を発揮したいです」、森山さんは「ベストを尽くしたいです」、白野さんは「ベスト十六に入りたいです」、小林藤夫君は「二回目なので昨年より良い結果を出したいです」、小林美咲さんは「全国大会初挑戦なので頑張りたいです」とそれぞれの目標に向かって気合い十分。また山田さん、白野さん、小林美咲さんは北海道で開催される全国大会にも、団体戦で出場が決まっております。

TOPICS

子どもたちも積極的にPR

第53回社会を明るくする運動 強調月間街頭PR



「社会を明るくする運動」の活動の一環として、七月六日に街頭PRが行われました。

この運動は、罪を犯した人たちの更正について理解を深めるとともに、犯罪や非行のない明るい社会を築こうと、全国各地で行われている運動です。街頭PRには保護司会などのほか、「根岸少年野球団」と「白根ジャガーズFC」の子どもたち約五十人が参加。運動を呼びかけるチラシや風船、花の種子を配布し、積極的にPRしました。参加したある児童は「最初は緊張したけど、来年もやりたい」と笑顔で話してくれました。

少年剣士230人が競い合う 第19回大鷲近郷親善剣道大会



大郷・鷲巻・根岸・大通地区公民館と同地区の少年剣士が活動する

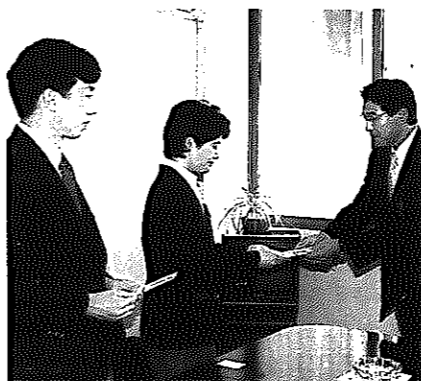
「北翔館」が共催した第十九回大鷲近郷親善剣道大会が、七月六日、大鷲小学校で行われました。

岩崎大会会長は「礼で始まる剣道を通して、お互い切磋琢磨してください」とあいさつ。近隣市町村から大会に参加した選手を含め、総勢二百三十人の剣士は、日ごろの練習成果を競い合いました。

大会結果「団体戦」中学生男子準優勝 白根北中学校 中学生女子第三位 白根北中学校 「個人戦」中学生男子優勝 五十嵐雅之（白根北中学校）第三位 安田光（白井剣士会）

情熱を持ち、発展に貢献

青年海外協力隊員 市長を表敬訪問



開発途上地域で、その国の発展に協力する青年海外協力隊のメンバー

二人が、出発に際し吉沢市長を表敬訪問しました。

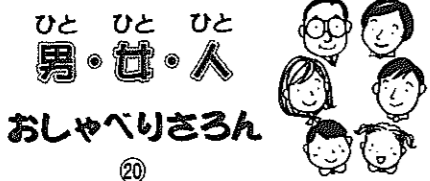
この日訪れたのは、白根高校に勤務する桜井麻利子さん（ニカラガア派遣）と、白根市出身で妙高高原町の小学校に勤務する野本純一さん（ボリビア派遣）。それぞれの国で教育面の指導に当たる二人の任期は二年間です。桜井さんは「現地での経験を高校生に伝え、彼らの視野を広げることにつなげたい」、野本さんは「自分の情熱をすべて注ぎ、いつかボリビアと日本の架け橋になりたい」と、活動に意欲を示していました。

子育てをもっと楽しく

平成15年度子育てふれあい教室



七月八日、大通地域生活センターで、未就園児とその保護者を対象に、子育てふれあい教室が開催されました。この日は四回シリーズの三回目、おやつ作りを行いました。会場では、講師からおやつ作りのひと工夫などを聞いて、「なるほど」と感心する参加者の姿が多く見られました。試食会では、子どもたちから「おいしい」の声が聞かれ、ある人は「今日は100点満点です。これを基に、いろいろアレンジしておやつを作りたいです」と自信を深めていました。



少子化って言うけれど... なんでだろう???

11月に行った市民意識調査の結果から、今号は「生まれてくる子どもの数が少なくなっている理由」について紹介します。

★みんなはどう思っているの?

アンケートの中の「最近生まれてくる子どもの数が少なくなっていますが、その理由は何だと思いますか（複数回答）」という設問に対して、「子育ての経済負担が大きいから」（76.9%）と「仕事と子育てを両立させるのが困難だから」（60.2%）が上位を占めています。

さらに見逃せない問題として、「子どもが欲しくないと考える人が増えたから」という回答が36.4%、また「結婚しても必ずしも子どもをつくる必要はないと思うか」という設問で肯定的な回答が35.5%でした。特に10代から30代の年代にそのような意見が多く、このようなことが現在の少子化傾向に少なからず影響しているのではないかと考えられます。

★少子化傾向の要因として...

内閣府がまとめた「青少年の育成に関する有識者懇談会」という報告書の中で、専業主婦の7割は育児不安を感じたことがあり、そのうち産後うつ病の母親が1割を超えているという結果が出ています。核家族化が進み、昔のように大家族や地域での子育てが少なくなり、母親の育児などに対する負担が大きくなったため、不安が増えているように思われます。また最近では男性の育児や家事への関心が高まってきてはいるものの、女性の家庭での役割はまだ大きな負担となっていることも、少子化傾向にある要因の一つなのかもしれません。

★みんなで話し合ってみよう!

育児に対するさまざまな不安は、男女、年代問わずみんなが持っています。子どもが欲しいかどうか、子育ての不安や負担を軽くするにはどうしたらよいかなど、「男女共同参画社会づくり」のテーマの一つとして、家族や職場などで、考えたり話し合ったりしてみたいと思いませんか?



「おしゃべりさん」は白根学習館ホームページでもご覧いただけます (http://pc2.gakushyukan-shirone-unet.ocn.ne.jp)